

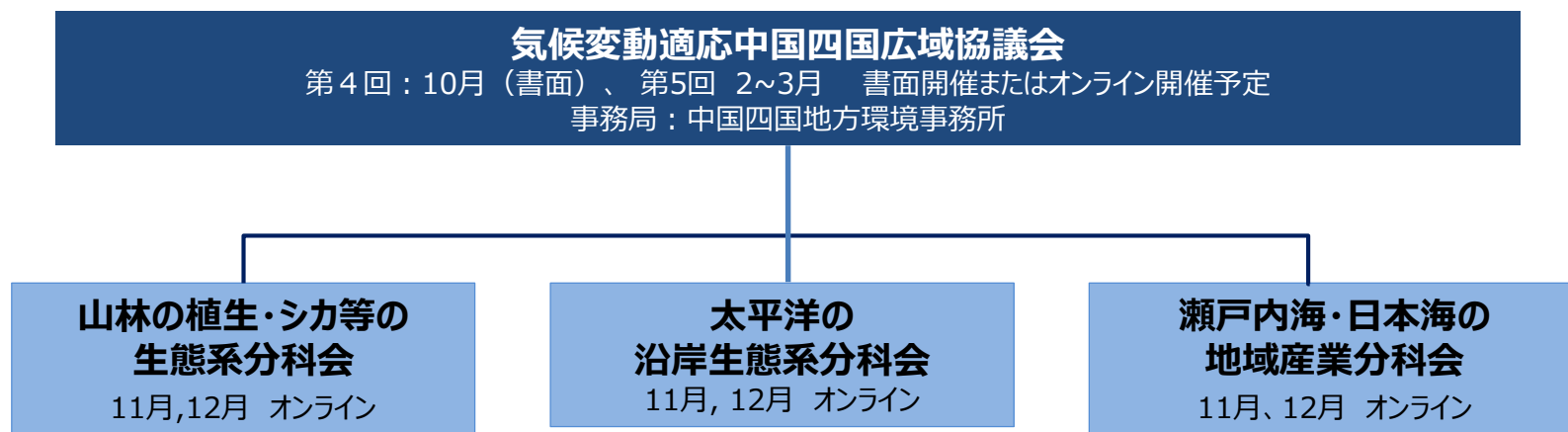
# 令和2年度事業報告

---

令和3年2月

中国四国地方環境事務所  
(株式会社 地域計画建築研究所  
共同実施者：広島大学、高知大学)

## ◆ 気候変動適応中国四国広域協議会の運営・開催



### <構成員>

- ・都道府県、政令指定都市、その他市町村※
- ・検疫所、農政局、森林管理局、経済産業局、地方整備局、運輸局、管区气象台等国の地方支分部局・地域気候変動適応センター、研究機関、有識者
- ・地域地球温暖化防止活動推進センター※
- ・地域の気候変動適応に関係を有する事業者等※
- ・その他

※地域の状況により、必要に応じて参加

### <アドバイザー>

敬称略 五十音順

| 氏名    | 所属                                  |
|-------|-------------------------------------|
| 石川 慎吾 | 高知大学 名誉教授                           |
| 白井 信雄 | 山陽学園大学地域マネジメント学部<br>地域マネジメント学科 教授   |
| 野田 幹雄 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構<br>水産大学校水産学研究科 教授 |
| 藤木 大介 | 兵庫県立大学 准教授<br>兵庫県森林動物研究センター 主任研究員   |
| 目崎 拓真 | 公益財団法人 黒潮生物研究所長                     |

## 山林の植生・シカ等の生態系分科会

---

# 山林の植生・シカ等の生態系分科会 ① 事業概要

## テーマ：山地・森林等の植生及びニホンジカ等の生態系における気候変動影響への適応

気候変動による山地・森林等における植生や生態系への影響は、既に顕在化している。例えば、中国四国地方は中国山地及び四国山地を有しているのが特徴であるが、標高の高い場所に自生する希少種が生息できる区域が気温上昇に伴って減少する可能性や、ニホンジカの生息域拡大によって、山地・森林等の植生及び農作物に食害が発生する等の影響が指摘されている。これらは、関係する都道府県等の区域を越えた広域的かつ共通的な課題であることから、気候変動影響や適応策に関する情報を収集し、アクションプランの策定を目指す。

### <メンバー>

令和2年12月現在

#### <アドバイザー> ※敬称略

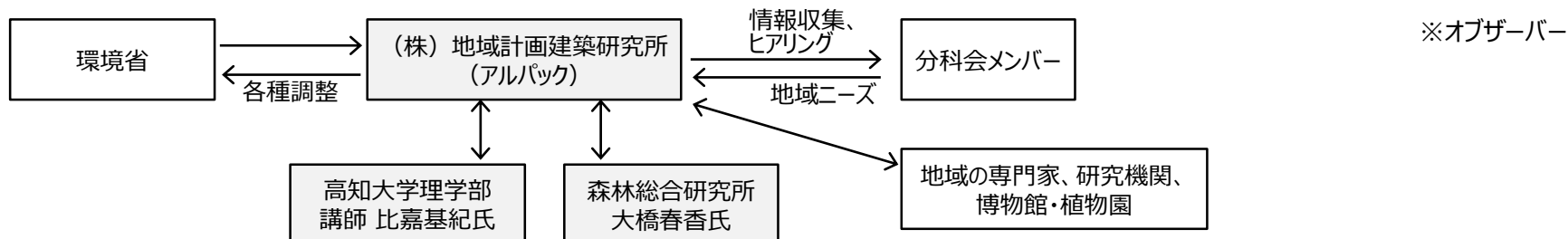
高知大学名誉教授 石川 慎吾  
兵庫県立大学准教授／兵庫県森林動物  
研究センター主任研究員 藤木 大介

#### <オブザーバー>

各県・政令指定都市のテーマに関係する部局、  
地域気候変動適応計画を所管する部局等

#### <推進体制>

| 種別                | メンバー                                                                                     |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地方公共団体            | 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県                                                          |
| 地域気候変動適応センター      | －                                                                                        |
| 地域地球温暖化防止活動推進センター | 鳥取県、島根県※、広島県                                                                             |
| 地方支分部局            | 農林水産省近畿中国森林管理局、農林水産省林野庁四国森林管理局、国土交通省四国地方整備局、気象庁大阪管区气象台、気象庁福岡管区气象台、環境省中国四国地方環境事務所（野生生物課）※ |
| 研究機関              | 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所                                                             |
| 企業 ほか             | －                                                                                        |



将来予測（ニホンジカ分布等）、  
アクションプラン検討

ニホンジカの分布予測モデル

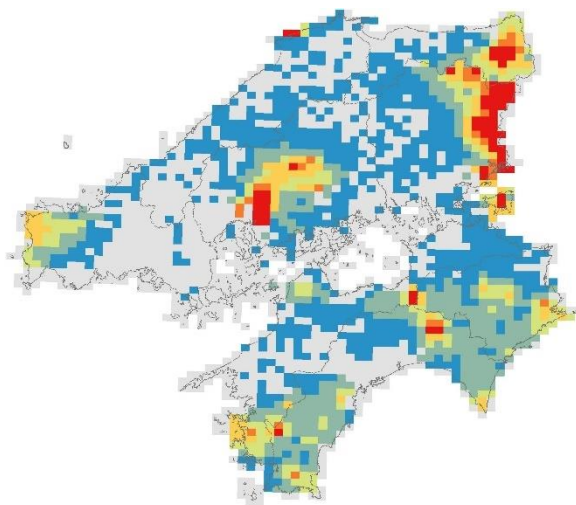
# 山林の植生・シカ等の生態系分科会 ② これまでと想定される将来の気候変動影響

## これまでの気候変動影響

- 文献調査やアンケート調査結果によると、気候変動が直接的な影響と考えられる植生や動植物種の変化は確認されていない。
- 暖冬にともなう積雪量の減少が一因となり、ニホンジカの高標高域への分布域拡大や、それにとまう植生等への影響が生じている。
- 植生等への影響は、四国山地の剣山山系や中国山地東部において著しく、これらの地域では、森林の下層植生の衰退、樹木の枯死、裸地化、希少植物の消失などの問題が生じており、四国山地では、植生衰退に起因する斜面崩壊も発生している。
- また、その他地域でも下層植生の衰退や林業被害等が認められている。
- 島根県などはニホンジカの分布拡大域にあたり、植生等への影響は検知されていない。

## 想定される将来の気候変動とその影響

- 気温上昇等の影響により、植生の分布適地が変化し、高標高域の植生や希少植物等の分布適地が消失する可能性があると予測される。
- ニホンジカの分布拡大により、現在影響が生じていない地域においても植生や希少植物等に対し深刻な影響が生じ、地域の生物多様性や森林の多面的機能に影響が生じる可能性がある。
- 影響が深刻化している地域では、森林の衰退や土砂流出、斜面崩壊が進行する可能性がある。



ニホンジカの推定生息密度 (頭/km<sup>2</sup>)

|        |         |          |
|--------|---------|----------|
| 分布確認なし | 0 - 10  | 31 - 40  |
|        | 11 - 20 | 41 - 50  |
|        | 21 - 30 | 51 - 130 |

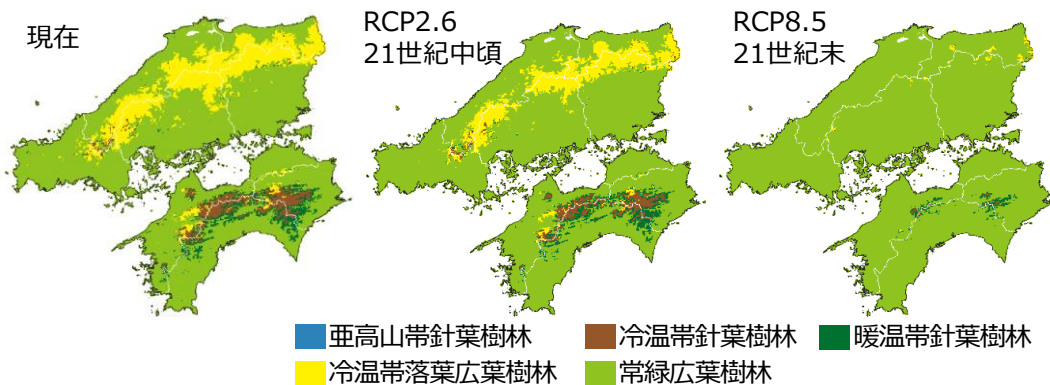
図. ニホンジカの生息密度分布  
(出典：環境省2014年データを元に作成)



図. ニホンジカの樹皮剥ぎにより  
衰退した針葉樹林



図. 植生衰退に起因する斜面  
崩壊の発生 (石川慎吾氏撮影)



■ 亜高山帯針葉樹林 ■ 冷温帯針葉樹林 ■ 暖温帯針葉樹林  
■ 冷温帯落葉広葉樹林 ■ 常緑広葉樹林

図. 植生の分布予測結果の一例 (MRI-CGCM3)  
(出典：地域適応コンソーシアム事業中国四国地域事業報告書)

# 山林の植生・シカ等の生態系分科会 ③ 課題と想定される適応アクション

## 明らかになった課題

- 高標高域の植生等に対しては、気候変動による直接的影響よりも、ニホンジカによる影響が急速かつ深刻であり、植生等の保全においてはニホンジカへの戦略的な対処（特に分布拡大の抑制）が重要課題との共通認識が確認された。
- ニホンジカに関しては各主体で生息状況のモニタリングに取り組んでいるが、アンケートでは、データの共有や地域全体での動向把握が必要との意見が得られた。
- 高標高域におけるニホンジカの捕獲や植生保護柵の設置は従事者の負担が大きく、担い手及び継続的な予算の確保が共通課題としてあげられた。
- 高標高域には、県境、自然公園、国指定鳥獣保護区、国有林等が広がっているため、各県や管理者が連携してモニタリングや捕獲等に取り組む必要がある。

## 想定される適応アクション

### ① ニホンジカの分布拡大予測を踏まえた適応アクションの時系列・地域別マッピング

- 分布拡大ルートにおけるニホンジカの捕獲
- 地域連携によるニホンジカの捕獲 等

### ② 連携によるモニタリング・担い手確保等の方策とりまとめ

- モニタリング情報の一元化による広域スケールでのニホンジカ分布・植生被害の把握
- 地域連携による人材育成、域外保全 等

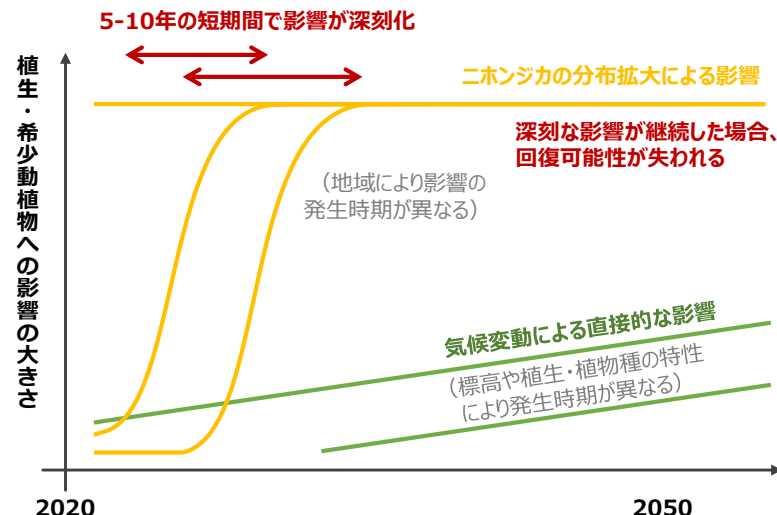


図. 植生等に対する時系列別の影響発生程度（イメージ）

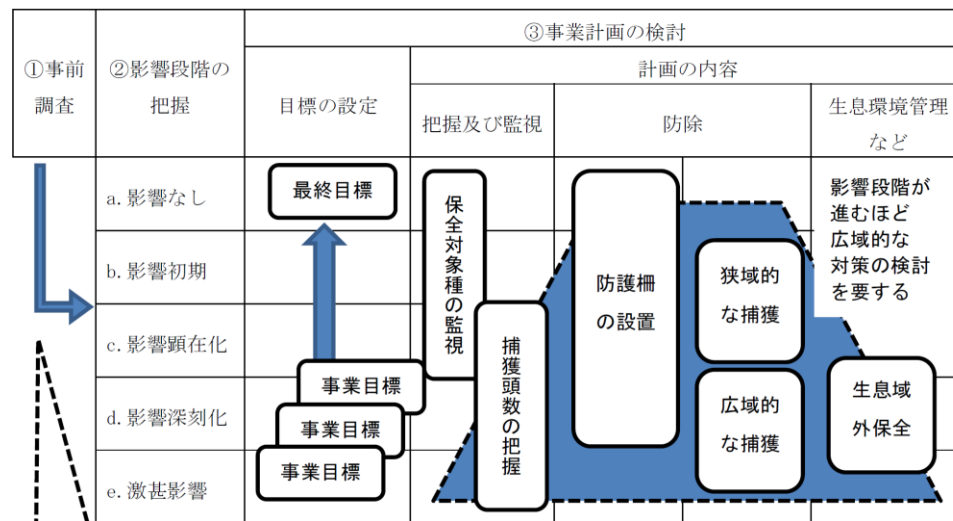
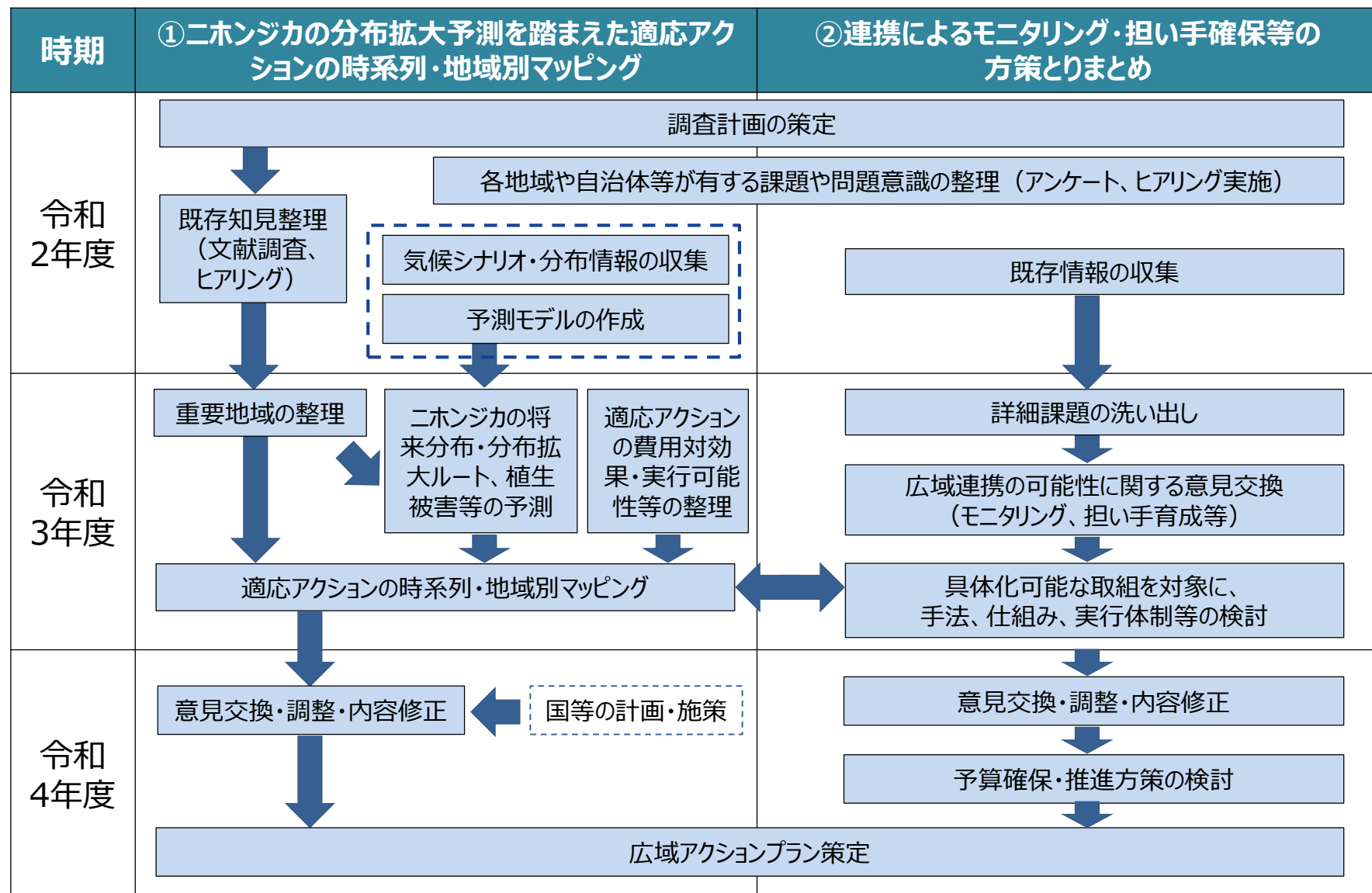


図. 計画の考え方（参考）（環境省 ニホンジカに係る生態系維持回復事業計画策定ガイドライン）

## 山林の植生・シカ等の生態系分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）



## 山林の植生・シカ等の生態系分科会 ⑤ 実施スケジュール（令和3-4年度）

## 【令和3年度 スケジュール】

| 項目                                             | 4月 | 5月         | 6月 | 7月         | 8月     | 9月         | 10月 | 11月 | 12月         | 1月     | 2月 | 3月 |
|------------------------------------------------|----|------------|----|------------|--------|------------|-----|-----|-------------|--------|----|----|
| 広域協議会                                          |    |            |    | ▲ 7月中旬 第1回 |        |            |     |     |             | 2月中旬 ▲ |    |    |
| 分科会                                            |    | 6月中旬 第1回 ▲ |    |            |        | ▲ 9月下旬 第2回 |     |     | ▲ 12月中旬 第3回 |        |    |    |
| 意見交換会                                          |    |            |    |            | ▲ 8月上旬 |            |     |     |             |        |    |    |
| ①ニホンジカの分布拡大予測を踏<br>まえた適応アクションの時系列・地<br>域別マッピング |    |            |    |            |        |            |     |     |             |        |    |    |
| ②連携によるモニタリング・担い手<br>確保等の方策とりまとめ                |    |            |    |            |        |            |     |     |             |        |    |    |

## 【令和4年度 スケジュール】

| 項目                                             | 4月 | 5月         | 6月 | 7月         | 8月         | 9月 | 10月 | 11月 | 12月         | 1月     | 2月 | 3月 |
|------------------------------------------------|----|------------|----|------------|------------|----|-----|-----|-------------|--------|----|----|
| 広域協議会                                          |    |            |    | ▲ 7月中旬 第1回 |            |    |     |     |             | 2月中旬 ▲ |    |    |
| 分科会                                            |    | 6月中旬 第1回 ▲ |    |            | ▲ 8月下旬 第2回 |    |     |     | ▲ 12月中旬 第3回 |        |    |    |
| 意見交換会                                          |    |            |    | ▲ 7月上旬     |            |    |     |     |             |        |    |    |
| ①ニホンジカの分布拡大予測を踏<br>まえた適応アクションの時系列・地<br>域別マッピング |    |            |    |            |            |    |     |     |             |        |    |    |
| ②連携によるモニタリング・担い手<br>確保等の方策とりまとめ                |    |            |    |            |            |    |     |     |             |        |    |    |

## 太平洋の沿岸生態系分科会

---

# 太平洋の沿岸生態系分科会 ① 概要

## テーマ：海水温の上昇等による太平洋沿岸域の海洋生態系の変化への適応

中国四国地方は太平洋、瀬戸内海及び日本海に面しているが、太平洋側では沿岸域におけるサンゴやオニヒトデ等の生息域が北上し、サンゴ等の海洋資源や地域産業への影響も考えられる。対策には、広域的かつ共通的な取組が必要であるため、気候変動影響や適応策に関する情報を収集し、アクションプランの策定を目指す。

### <アドバイザー> ※敬称略

公益財団法人 黒潮生物研究所長 目崎 拓真

### <メンバー>

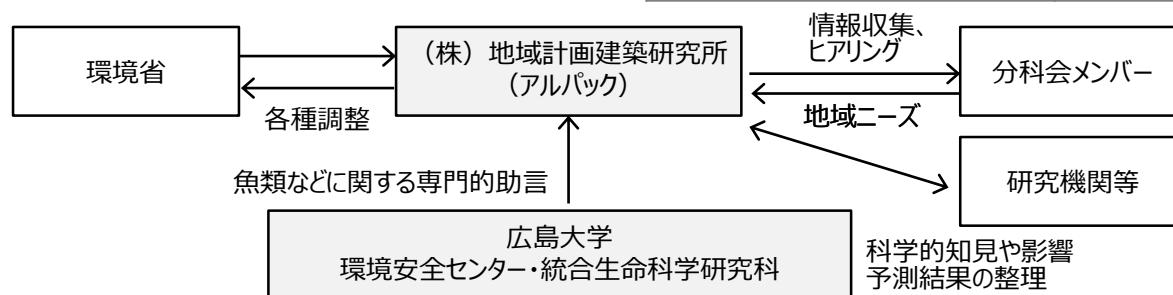
令和2年12月現在

| 種別                | メンバー                                                      |
|-------------------|-----------------------------------------------------------|
| 地方公共団体            | 徳島県、愛媛県、高知県                                               |
| 地域気候変動適応センター      | —                                                         |
| 地域地球温暖化防止活動推進センター | —                                                         |
| 地方支分部局            | 国土交通省四国地方整備局、気象庁大阪管区气象台、気象庁福岡管区气象台、環境省中国四国地方環境事務所（国立公園課）※ |
| 研究機関              | —                                                         |
| 企業 ほか             | —                                                         |

### <オブザーバー>

各県のテーマに関係する部局、地域気候変動適応計画を所管する部局等

### <推進体制>



※オブザーバー

# 太平洋の沿岸生態系分科会 ② これまでと想定される将来の気候変動影響

## これまでの気候変動影響

- 気象庁の観測によると、西日本の太平洋側における海面水温は100年で1.23℃の割合で上昇している。
- 文献調査及び専門家へのヒアリングによると、過去30年間に於いて、サンゴの分布域拡大や種数の増加、温帯性藻場から熱帯性藻場（春藻場）への変化、魚類相の変化など生態系の変化が生じている。
- 発生回数は多くないものの、夏季の高温によるサンゴの白化現象も確認されている。
- ヒアリングによると、サンゴの増加により、地域で小規模に行われているイセエビ漁への支障（建網や建網漁の漁具の破損）も確認されている。

## 想定される将来の気候変動とその影響

- 既存研究及び地域適応コンソーシアム事業全国事業の成果によると、海水温の上昇により藻場の衰退とサンゴの分布拡大がさらに進行し、沿岸の生態系が大きく変化する可能性がある。
- 食害生物の繁殖域拡大やサンゴ白化現象の頻度増加によりサンゴ群集が衰退する可能性がある。
- 海洋の酸性化によるサンゴの衰退が生じる可能性もある。
- 海水温上昇や藻場からサンゴ群集への生息場の変化によって魚類相が変化することで、地域の沿岸漁業に影響が生じる可能性がある。
- 南方系の魚類等が増えることにより、観光面でも活用のチャンスが増える可能性がある。

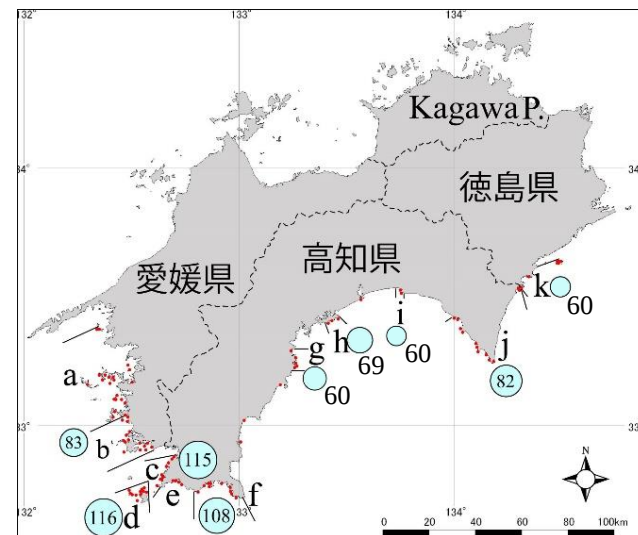


図. 四国太平洋沿岸におけるサンゴの確認位置と分布種数（（公財）黒潮生物研究所提供）

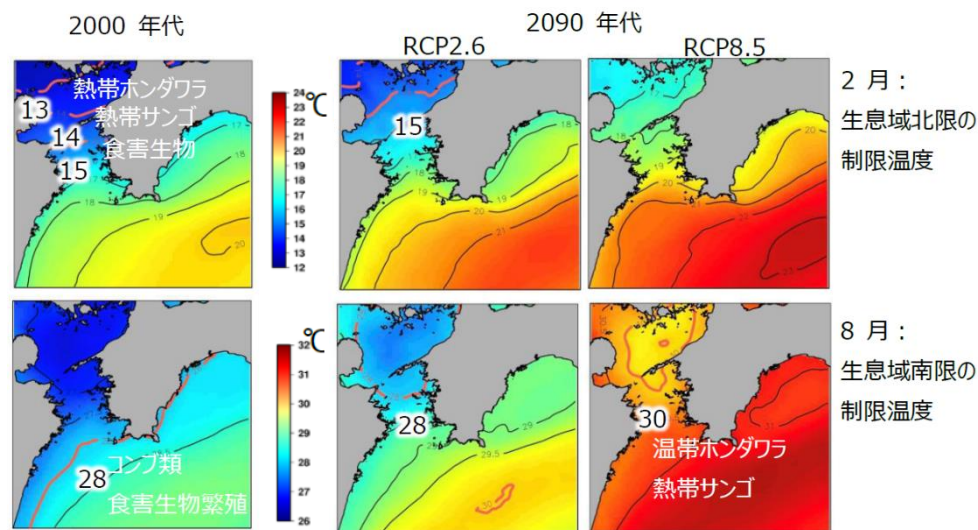


図. 足摺宇和海の藻場・サンゴ群集における主要種の分布範囲の将来予測（地域適応コンソーシアム事業全国事業報告書）

# 太平洋の沿岸生態系分科会 ③ 課題と想定される適応アクション

## 明らかになった課題

- オヒトデ等によるサンゴの食害が増加しつつあり、駆除未実施の地域ではサンゴの衰退が進行し壊滅的な状態になっている。
- 食害生物の駆除を実施している一部の地域では、サンゴ群集が維持されているものの、ダイバーの高齢化による人手不足や安定的な予算確保が課題となっている。
- サンゴの分布が拡大傾向にある一方で、食害生物による衰退や、冬季の低水温によるへい死も発生している。気候変動にともなう変化を把握するためには年間を通じてのモニタリングが必要であるが、モニタリング地点は限られており、継続的に実施可能な体制が整っていない。
- 藻場からサンゴ群集への変化による魚類などの生物相の変化や、それにもなう漁業・観光業など地域の産業や地域文化への影響（プラスの影響も含む）がよくわかっていない。
- 元々サンゴ及びサンゴ群集を基盤とした生態系の少ない地域であり、海中の生態系変化について地域の認識が低いことから、生態系の変化の状況及び新たに成立する生態系の実態、保全の重要性、利用価値、利用方法等についての普及啓発が重要となっている。

## 想定される適応アクション

- ① 地域の生態系資源の保全・活用方針の作成
  - ・観光・漁業におけるサンゴや南方系魚種の活用
  - ・保護区域の見直し 等
- ② 持続可能なモニタリング（担い手確保等も含む）の仕組みづくり
  - ・藻場・サンゴ・魚種等の広域モニタリング
  - ・広域連携による食害生物駆除等の担い手育成、普及啓発 等

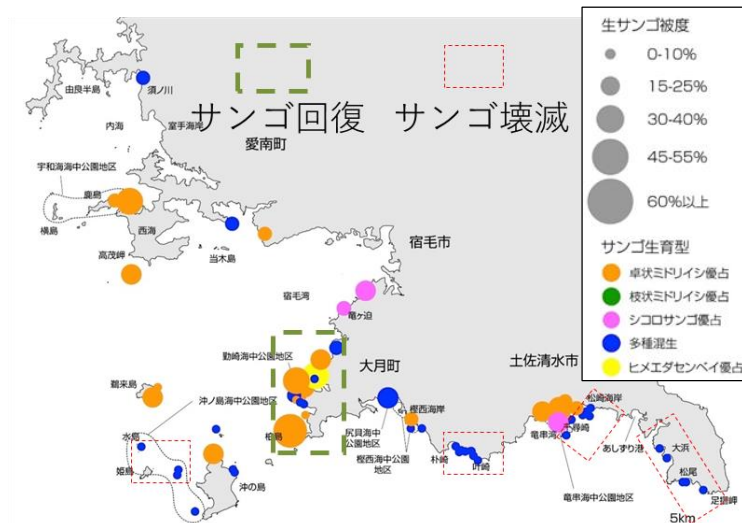


図. 足摺宇和海国立公園周辺におけるサンゴの分布状況変化 ((公財)黒潮生物研究所提供)

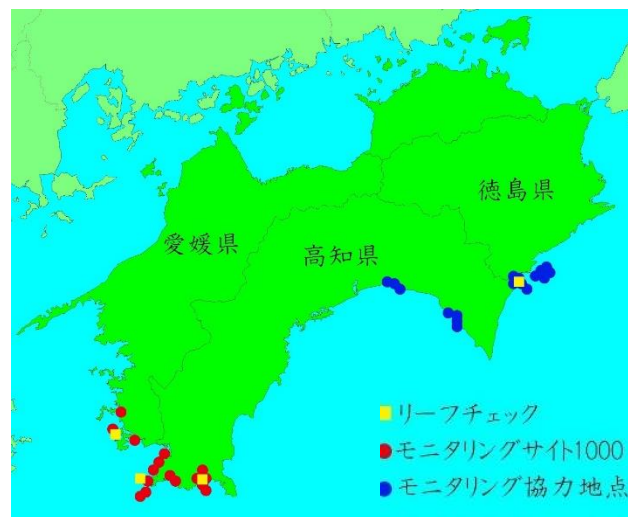
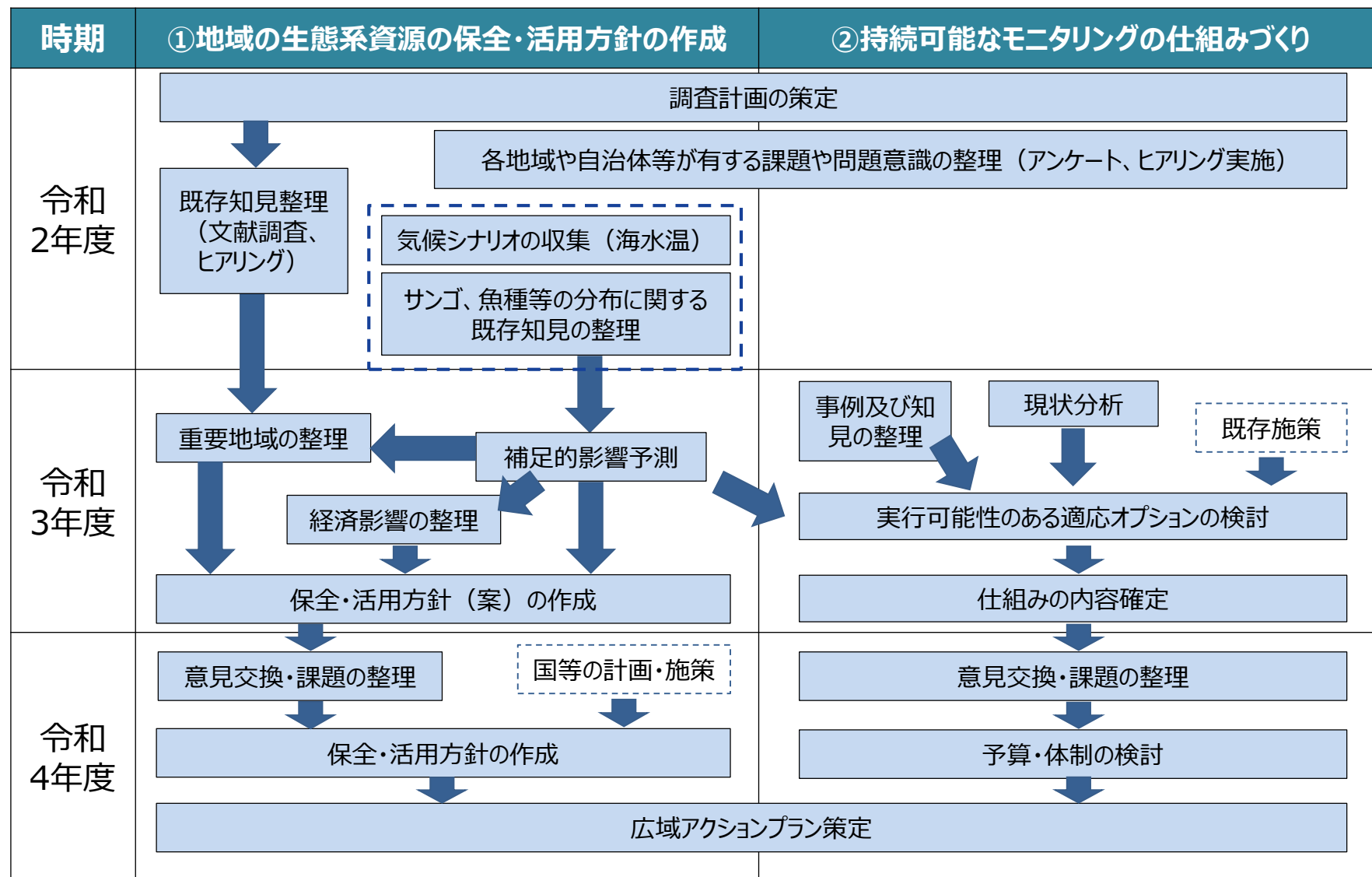


図. 2020年時点のモニタリングポイント ((公財)黒潮生物研究所提供)

# 太平洋の沿岸生態系分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）



## 太平洋の沿岸生態系分科会 ⑤ 実施スケジュール（令和3-4年度）

## 【令和3年度 スケジュール】

| 項目                                         | 4月 | 5月         | 6月        | 7月         | 8月                 | 9月 | 10月                | 11月 | 12月                | 1月        | 2月 | 3月 |
|--------------------------------------------|----|------------|-----------|------------|--------------------|----|--------------------|-----|--------------------|-----------|----|----|
| 広域協議会                                      |    |            |           | ▲ 7月中旬 第1回 |                    |    |                    |     |                    | 2月中旬 ▲    |    |    |
| 分科会                                        |    | 6月中旬 第1回 ▲ |           |            |                    | ▲  | 9月下旬 第2回           |     | ▲                  | 12月中旬 第3回 |    |    |
| 意見交換会                                      |    |            |           | ▲ 7月上旬     |                    |    |                    |     |                    |           |    |    |
| 検討課題①<br>地域の生態系資源の保全・活用<br>方針の作成           |    |            | 重要地域の整理   |            | 経済影響の整理            |    | 経済影響の整理            |     | 経済影響の整理            |           |    |    |
|                                            |    |            | 補足的影響予測   |            | 保全・活用方針（案）の作成      |    | 保全・活用方針（案）の作成      |     | 保全・活用方針（案）の作成      |           |    |    |
| 検討課題②<br>持続可能なモニタリング（担い手<br>確保等も含む）の仕組みづくり |    |            | 現状分析      |            | 実行可能性のある適応オプションの検討 |    | 実行可能性のある適応オプションの検討 |     | 実行可能性のある適応オプションの検討 |           |    |    |
|                                            |    |            | 事例及び知見の整理 |            | 仕組みの内容確定           |    | 仕組みの内容確定           |     | 仕組みの内容確定           |           |    |    |

## 【令和4年度 スケジュール】

| 項目                                         | 4月          | 5月         | 6月          | 7月         | 8月           | 9月       | 10月          | 11月 | 12月          | 1月        | 2月 | 3月 |
|--------------------------------------------|-------------|------------|-------------|------------|--------------|----------|--------------|-----|--------------|-----------|----|----|
| 広域協議会                                      |             |            |             | ▲ 7月中旬 第1回 |              |          |              |     |              | 2月中旬 ▲    |    |    |
| 分科会                                        |             | 6月中旬 第1回 ▲ |             |            | ▲            | 8月下旬 第2回 |              |     | ▲            | 12月中旬 第3回 |    |    |
| 意見交換会                                      |             |            |             | ▲ 7月上旬     |              |          |              |     |              |           |    |    |
| 検討課題①<br>地域の生態系資源の保全・活用<br>方針の作成           | 意見交換・課題の整理  |            | 意見交換・課題の整理  |            | 保全・活用方針の作成   |          | 保全・活用方針の作成   |     | 保全・活用方針の作成   |           |    |    |
|                                            | 国等の計画・施策の反映 |            | 国等の計画・施策の反映 |            | 広域アクションプラン策定 |          | 広域アクションプラン策定 |     | 広域アクションプラン策定 |           |    |    |
| 検討課題②<br>持続可能なモニタリング（担い手<br>確保等も含む）の仕組みづくり | 意見交換・課題の整理  |            | 意見交換・課題の整理  |            | 予算・体制の検討     |          | 予算・体制の検討     |     | 予算・体制の検討     |           |    |    |
|                                            |             |            |             |            | 広域アクションプラン策定 |          | 広域アクションプラン策定 |     | 広域アクションプラン策定 |           |    |    |

## 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会

---

# 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会 ① 事業概要

## テーマ：瀬戸内海及び日本海の漁業等、地域産業における気候変動影響への適応

瀬戸内海及び日本海においては、近年の海水温上昇によって、沿岸の漁業（藻場）やリやワカメ、カキ等の養殖業に影響が生じており、今後の気候変動の進行によって、さらなる適応策が必要となる可能性が指摘されている。本分科会においては、瀬戸内海及び日本海における漁業等への気候変動影響及び適応策に関する情報を収集し、広域で連携して実施するアクションプランの策定を目指す。

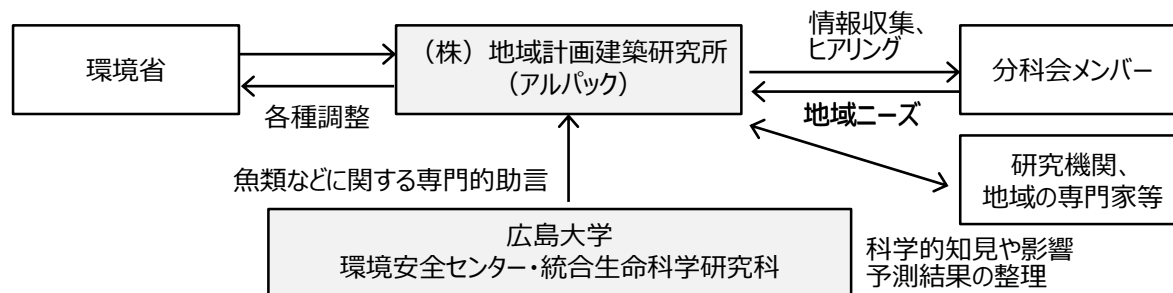
### <アドバイザー> ※敬称略

野田幹雄  
（国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産大学校水産学研究科 教授）

### <オブザーバー>

—

### <推進体制>



### <メンバー>

令和2年12月現在

| 種別                | メンバー                                            |
|-------------------|-------------------------------------------------|
| 地方公共団体            | 島根県、岡山県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、岡山市、広島市                 |
| 地域気候変動適応センター      | 香川県                                             |
| 地域地球温暖化防止活動推進センター | 山口県                                             |
| 地方支分部局            | 国土交通省中国地方整備局、国土交通省四国地方整備局、気象庁大阪管区气象台、気象庁福岡管区气象台 |
| 研究機関              | 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所                        |
| 企業 ほか             | —                                               |

## 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会 ② これまでと想定される将来の気候変動影響

## これまでの気候変動影響

自治体アンケート調査結果で明らかとなったのは下記のとおり。

- ・ 地域で影響を感じているものとしては、養殖漁業が最も多い。ワカメの養殖において、期間の短期化や色落ちなどの影響が出ている。また、秋の水温低下が遅れ、採苗時が従来より遅くなることにより養殖期間が短くなり、10年ほど前は二毛作が出来ていたが、一毛作しか出来なくなっている。
- ・ 冷水性のカレイ類、アイナメの他、シャコ、イダコ、マアナゴ等が減少する一方、マダイ、キジハタ、ハモ、ヒラメが増加傾向。アイゴやブリの0歳魚の出現が多くなるなど天然漁業において漁獲量が変化している。
- ・ 二枚貝（アサリ）についても食害魚の影響が出ている。
- ・ 伊予灘、安芸灘の建網漁業において、ホシエイによる食害が発生している。
- ・ 藻場については、磯焼け（食害による影響など）とともに、台風の巨大化により、藻場の分布域へ影響を及ぼしている。

## 想定される将来の気候変動とその影響

- ・ 地域適応コンソーシアム事業の将来予測では、海水温上昇による養殖期間の短期化（養殖開始時期の遅延および終漁時期の早期化）が生じ、21世紀末（RCP8.5）では、ワカメの養殖が困難になる地域が現れる可能性がある。
- ・ 海水温上昇及び暖海性魚類の食害増加（越冬アイゴによる食害の発生が21世紀末RCP8.5で100%と推測）により、藻場衰退が進行する可能性がある。
- ・ 冬季の水温上昇に伴い、魚種の分布変化の可能性がある。

図. 冬季最低水温月の水温分布から見た藻類養殖域の気候帯変化（出典：広島大学）日本海についてもデータ整理中

- 報告されている適水温到達日（23℃以下に低下、18℃を超えるまで）
- 現在の実際の養殖メシグの水温への到達日（19℃以下に低下、14℃を超えるまで：備前湾）
- ➡ 収穫期間：摘採開始日から終了日（19℃以下に低下、14℃を超えるまで：徳島）

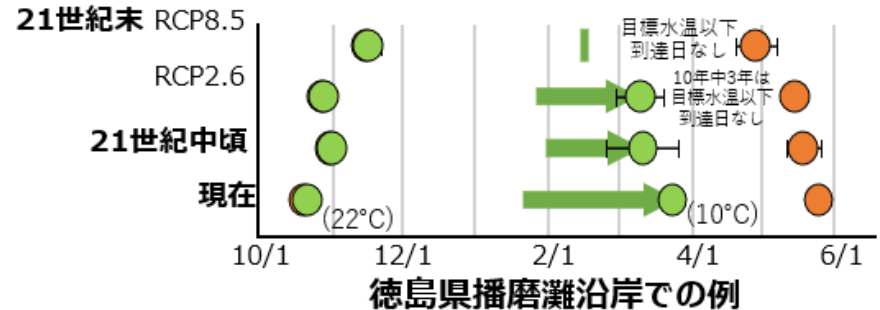
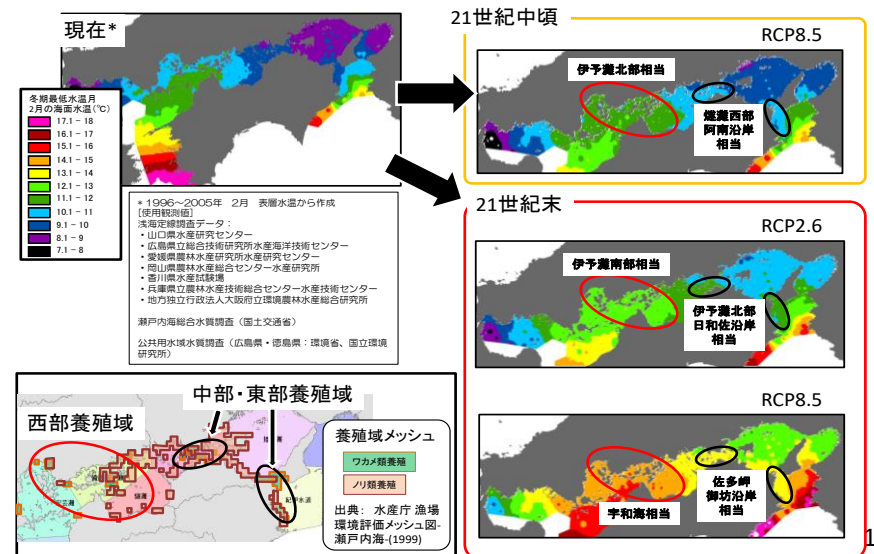


図. 水温上昇によるワカメ養殖開始日の遅延と終了早期化に伴う収穫期間の短縮（出典：環境省「地域適応コンソーシアム中国四国地域事業委託業務 業務報告書」）



## 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会 ③ 課題と想定される適応アクション

## 明らかになった課題

- ・ノリ・ワカメの養殖業に関しては、地域で品種改良等が行われているが、隣接地域環境にあったものができおらず、活用できないケースがあるなど課題が挙げられる。広域での取組としては、人材育成や課題等の情報共有が望まれた。
- ・適応策推進にあたっては、人員、体制、予算不足についてが多く挙げられた。技術伝承や観測データ等の解析などの技術習得の機会が少ない。
- ・海洋情報の観測体制は国と地方自治体の努力によって実施されているが、行政の枠を超えたデータ共有は十分でない。また、データが膨大であり、分析ができていない。
- ・気候の将来予測が不確実性を含むこと、また、適応策は様々な行政機構が連携して取り組む必要があること、施策決定プロセスが定まっていないことも課題として挙げられた。

## 想定される適応アクション

## ① 気候変動の不確実性に備えたモニタリング及び情報共有の方策とりまとめ

- ・研究機関等との持続的な連携に向けたモニタリング情報に関するプラットフォーム形成
- ・不確実性に対応する人材育成・体制づくり 等

## ② 将来的な魚種変化等への適応オプション及びアクションとりまとめ

- ・将来的なチャンスに適応した地域間連携による産業育成（既存産業へ配慮した魚種選定、流通量確保のための地域間連携等）
- ・リスクに適応した機能の分散配置と連携強化 等

図. 冬季水温と出現ハタ亜科魚種数の関係  
(出典：広島大学作成)

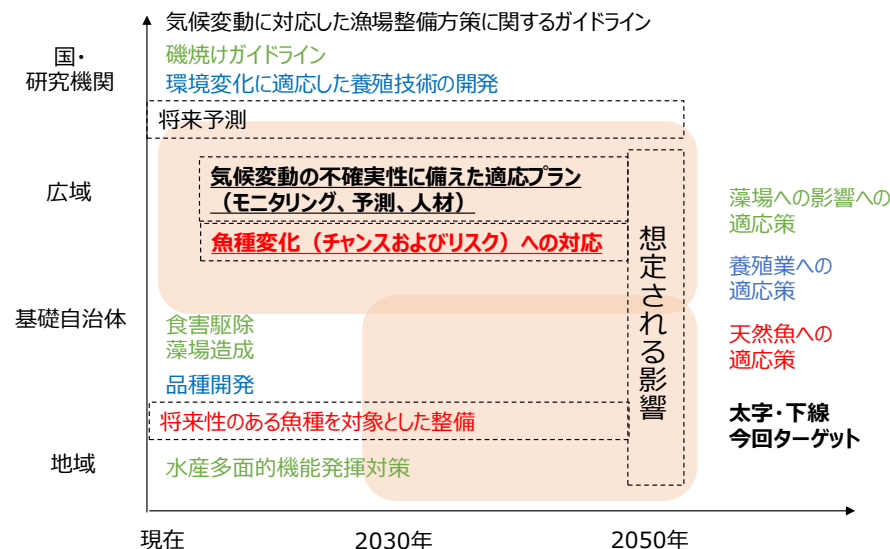
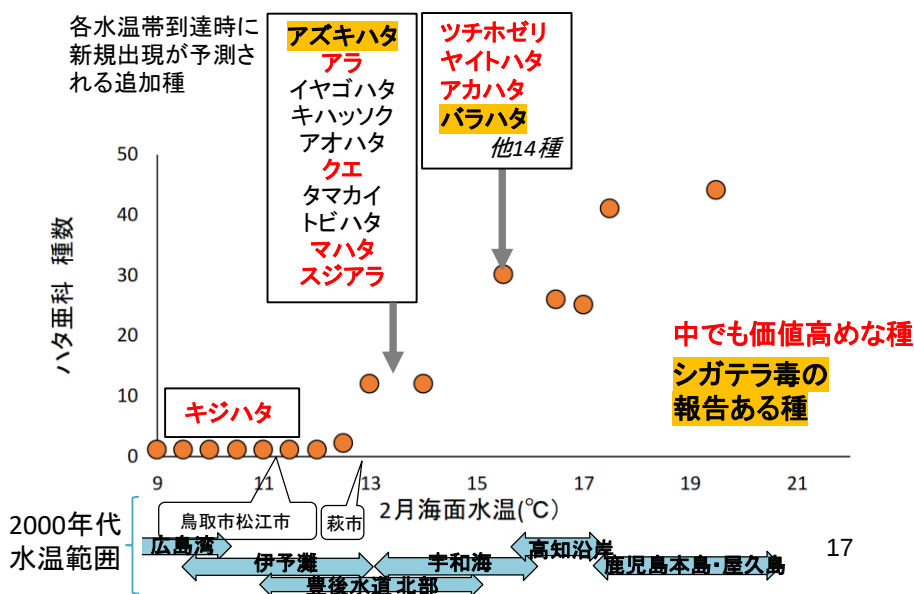
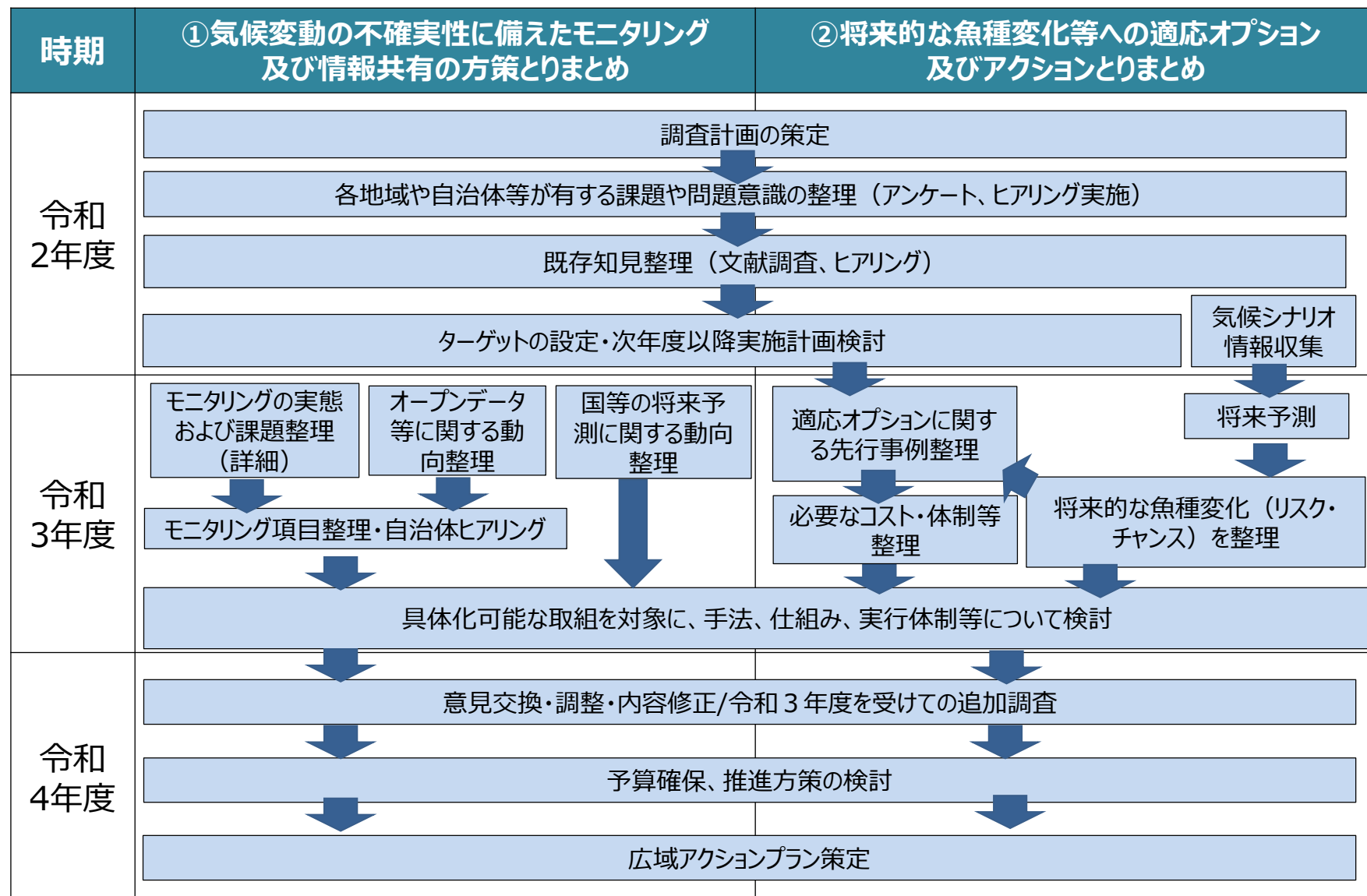


図. 現在取り組まれている適応策（一部）および広域連携のターゲット



## 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会 ④ 実施計画（令和2-4年度）



## 瀬戸内海・日本海の地域産業分科会 ⑤ 実施スケジュール（令和3-4年度）

## 【令和3年度 スケジュール】

| 項目                                 | 4月 | 5月         | 6月 | 7月         | 8月     | 9月 | 10月      | 11月 | 12月 | 1月        | 2月 | 3月 |
|------------------------------------|----|------------|----|------------|--------|----|----------|-----|-----|-----------|----|----|
| 広域協議会                              |    |            |    | ▲ 7月中旬 第1回 |        |    |          |     |     | 2月中旬 ▲    |    |    |
| 分科会                                |    | 6月中旬 第1回 ▲ |    |            |        | ▲  | 9月下旬 第2回 |     | ▲   | 12月中旬 第3回 |    |    |
| 意見交換会                              |    |            |    |            | ▲ 8月上旬 |    |          |     |     |           |    |    |
| 気候変動の不確実性に備えたモニタリングおよび情報共有の方策とりまとめ |    |            |    |            |        |    |          |     |     |           |    |    |
| 将来的な魚種変化等への適応オプション及びアクションとりまとめ     |    |            |    |            |        |    |          |     |     |           |    |    |

## 【令和4年度 スケジュール】

| 項目               | 4月 | 5月         | 6月 | 7月         | 8月 | 9月       | 10月 | 11月 | 12月 | 1月        | 2月 | 3月 |
|------------------|----|------------|----|------------|----|----------|-----|-----|-----|-----------|----|----|
| 広域協議会            |    |            |    | ▲ 7月中旬 第1回 |    |          |     |     |     | 2月中旬 ▲    |    |    |
| 分科会              |    | 6月中旬 第1回 ▲ |    |            | ▲  | 8月下旬 第2回 |     |     | ▲   | 12月中旬 第3回 |    |    |
| 意見交換会            |    |            |    | ▲ 7月上旬     |    |          |     |     |     |           |    |    |
| 広域アクションプラン検討について |    |            |    |            |    |          |     |     |     |           |    |    |